

テストの意味を考えよう

ー学力を身につける(「定着」)のためにテストはあることを知ろうー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q テストは何のためにあるのですか。

A (林 明夫。以下略)「よい点数を取り、高い評価を得るため」だと考えます。

Q 評価をするのは誰ですか。

A 教え手である先生や皆さんの保護者が「よくがんばったね」とか「もっとしっかりやろうね」とかの評価をするという考えもあります。私は、これに加えて、「学習する本人自身」がテストを通じて自分の学力を評価すべきと考えます。

本音を言うと、評価は誰がするかと言えば、本人であるというのが、私の考えです。

Q では、何のために「よい点数を取り、自分自身で高い評価を得るため」にテストというものはあると林さんはお考えですか。

A テストでよい点数を取り、高い評価を得るためには、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を身につける、つまり「定着」させなければなりません。私は、学力を身につける、つまり「定着」のためにテストはある、存在すると考えます。一度学んだことを「定着」させるためにテストはありと私は考えます。

Q 「理解」、「定着」とは何ですか。

A 学校や開倫塾の授業などを通じて、教科書に書いてある内容や勉強すべき内容が「うんなるほど」と腑(ふ)に落ちる、「よくわかる」、「納得する」ことを、「理解」といいます。

この「理解」は、他人の話聞く以外でも、自分一人で本をじっくり読むことやラジオやTV、インターネットを通じてでもできます。ただ、「うんなるほど」と「よくわかる」、つまり「理解」はできても「アッ」という間に忘れてしまうことが多いので、一度「理解」したことをしっかり身につけるという意味での「定着」が大切です。

開倫塾では、「定着」の意味を具体的に次の3つのレベルに分けて考えます。

① 一度「うんなるほど」と「理解」した内容がスラスラ口について正確に言えるようにまでなること。「暗唱(あんしょう)」ですね。

* 教科書に書いてあることや、授業中にとった「ノートブック」に書いてあることが、すべてスラスラ正確に口について出る。はっきりと言えるようにすること。これが「定着」の第1段階。

＊ このためには、授業中の「ノートブック」は授業中や授業が終わったあとで十分使えるように、よくまとめ直しておく必要があります。

「ノートブック」は、授業中に先生が黒板に書かれたことをそのまま写したり、与えられた問題を解くためだけにあるものではありません。大切なことを整理し、何回も何十回も見直し、考えをまとめたり、それを身につけるために存在するのです。自分自身の一生の宝物、「本(ブック)」が、「ノートブック」なのです。自分自身でつくりあげた「ノートブック」は、「定着」のためにも必要です。

ちょっと横道にそれてしまいましたね。

② 「定着」の2つめの意味は、何も見ないでスラスラロについて正確に言えるようになったことが、何も見ずに正確に楷書(かいしょ)で書けるということです。「暗記」すること、つまり「覚えたことが書ける」こと。これが「定着」の2つめの意味です。

③ 「定着」の3つめの意味は、一度「理解」したことを使って、簡単な問題は問題を見た瞬間にパッと「条件反射で正確に解答できる」ことです。ただし、条件反射で答えを出す練習をする前に、ゆっくりと時間をかけて、なぜこの問題の答えはこうなるのかを自分で解いてみてうんなるほどと「理解」することが大事です。プロセス(つまり手順)を、丁寧に自分で問題を解くことにより納得すること。よくわかることが大切です。それから、2～3回、同じ問題、基本的な問題を自分の力で解いてみることをお勧めします。このようなやり方で、なぜこの問題についての解答がこうなるのかということがよく「理解」できたら、次の段階で、問題を見た瞬間に答えが出せるかどうか試してみてください。

これは、かけ算九九と同じです。2×3の意味がよくわかってから、2×3という問題を見た瞬間に6という答えをパッと出せるようにした方がよいということです。

意味もわからないのに答えだけ覚えても、本当の学力は身につけません。意味のよくわかったこと、納得したこと、「理解」したことを覚えるようにしましょう。

Q テストは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「定着」させるためにある、存在すると林さんはお考えなのですね。

A その通りです。学校や開倫塾では、授業ごとに前回までの授業内容についての「確認テスト」が行われることが多いと思われます。

何のためにこの「確認テスト」が学校や開倫塾で行われると、皆様はお考えですか。先生が、学習者である皆様がどのくらい前回までの授業内容を「理解」しているか、また、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を身につけたか、「定着」させたかを「確認」するために、「確認テスト」はあるのだという考えもあります。先生が、これからの授業や教え方の参考にしたり、一人ひとりの塾生の皆様の実情を知った上で適切な教え方を考えるために、「確認テスト」は必要です。

Q 「確認テスト」の、学習者にとっての意味は何ですか。

A 前回の授業までに一度「うんなるほど」と「理解」した基本的な学習内容について、次回の授業までに学力を「定着」させるために「確認テスト」は存在する。そう私は考えます。

「教育成果」は、「本人の自覚」と「教え手の力量」によって決まると私は考えます。「本人の自覚」を促すには、大きな目標を設定することも大切ですが、中位の目標や小さな目標をつくることも大切です。毎日の授業でよく「理解」できた内容を次の授業までにしっかり「定着」させよう、

そのために「確認テスト」でいつも 100 点を取ろうという「小さな目標」は、「本人の自覚」を高め「教育成果」を生み出すのにとっても役立ちます。しっかり授業ごとの「確認テスト」と取り組んで下さい。

Q 「単元テスト」や中間・期末・学年末テストなどの「定期テスト」、「高校入試」、「大学入試」なども同じように考えればよいのですか。

A その通りです。

(1) 1つ1つの単元や章が終了した時に行われる「単元テスト」は、一度「うんなるほど」と「理解」したその「単元」の大切な学習内容をしっかりと「定着」させるために存在します。

ですから、先ほどの「確認テスト」を授業ごとに確実にやって下さる先生や、この「単元テスト」を各「単元」が終了する都度(つど)やって下さる先生は、学習者の学力を「定着」させるという意味で、素晴らしい先生と言えます。「確認テスト」や「単元テスト」を確実に行う先生を、私は「高く評価」します。「確認テスト」や「単元テスト」を確実に行って下さる先生から指導を受けられる人は幸せであると思います。

(2) 「中間テスト」や「期末テスト」、「学年末テスト」などの「定期テスト」も全く同様です。テスト範囲について一度「うんなるほど」と「理解」した内容をしっかり「定着」させるために「定期テスト」はあるのだ、存在するのだと私は考えます。

(3) 「高校入試」や「大学入試」も全く同じように考えます。義務教育の9年間で学習した内容をしっかり身につけ「定着」させた上で高校に進学するために、「高校入試」は存在する。

高校3年間に学習した内容をしっかり身につけ「定着」させた上で大学に進学するために、「大学入試」は存在する。このように私は考えます。

(4) 英検や漢検、数検、トイックやトーフル、司法試験や公認会計士の試験、医師国家試験、公務員試験などなどありとあらゆる試験も、今までお話した「テスト」と同じように私は考えます。

「うんなるほど」と一度「理解」した「テスト範囲」として示された学習内容について、しっかりとした学力を「定着」させた上で活躍するために、ありとあらゆる「テスト」は存在すると私は考えます。

Q そうですか。そうだったのですか。これでやっとテストの意味がわかりました。

A ですから、テストは、誰かにやらされていると被害者意識で受けるのではなく、今までやってきた勉強を確実に身につける、「定着」させるために取り組むもの。テストを通じて本当の学力を身につけ将来に備える。テストを通じて学力を身につけることにより、自分の未来は自分で切り開く。テストを通じて自分を鍛える。このような意味をテストに見出し、積極的に生きることが大事なのではないのでしょうか。

一度、皆様も「テスト」の意味をお考えになりませんか。

3月24日記